

# 区医だより

発行●浪速区医師会 編集●広報部

## 巻 頭 言

### スマートフォン

本 田 秀 明

(本田クリニック 院長)

最近携帯電話を買い換えた。今流行のスマートフォンである。思い起こすと移動通信体と私の付き合いは25年程遡る事になる。研修医として医局に入局した際、まず言われたことは、ポケットベルを常時携帯しなさい、ということであった。私は形成外科の医局に入局したのであるが、当時我が医局は救急医療で切断指、顔面外傷、熱傷等救急外傷を扱っており、しばしば呼び出され、救命センターに入り浸っていたものだ。

最初に持ったポケットベルはタバコのボックスの半分か 1/3 くらいの厚みで、呼び出し機能と電話番号表示があるだけであった。その後 1～2 センテンスの簡単な文章が送れるようになった。プッシュホンからカタカナで文章を送れるものだ。私はあまり得意ではなかったので文は送らなかった。これは 6～7 年使ったように思う。その後ようやく携帯電話の登場である。はじめは肩にかける大きなもので 10kg 以上あったか、車につけて使っていた。トランクに黒い短いアンテナが立っていて、なんとなくカッコ良かったような気がする。しかし車にいないときは使えないのでポケットベルと併用していた。

実用的に携帯できる携帯電話が数年して発売されたが、はじめの機種はポケットに入る

ような物ではなく、セカンドバッグに入れて持ち運ぶものであった。これは夜の街などで、その筋の人がこれ見よがしにバッグから取り出し、なんと言おうことのない会話をしていたのをよく見かけた。かなり高額でまだ勤務医であった身分ではとても買う気にはなれなかった。そうこうしている内に比較的安価な機器が発売された。比較的安価とはいえ 10 万円位していたのではなかったか、うろ覚えであるがとにかく購入、持つこととなった。通話料も高く、通話時間も短かったので専ら着信専用、200g 位で結構かさばったのでポーチなどに入れるか、ベルトに着けていた。1～2 年してパナソニックから 100g を切る携帯が発売された。早速買い換えた。このころの携帯電話は通話のみの機能しかなかったが結構重宝した。ただ携帯電話は此方の都合などお構いなしにベルがなり、ほって置けばよいのだが、なんとなくそわそわして「電話に出なければ!」と思ってしまう、困った物であった。このタイプは 10 年くらい続いたか、さてその後メール機能の登場となる、はじめは通信相手でメールをする者も少なく、ほとんどメールは使わなかった。あまり便利でなかったので皆使いたいと思わなかったのかもしれない。しかし i-mode の登場と携帯の普及から一気にメールが普及した。携帯、特にメールが普及し始めてから、結構長い文章が送れ



るようになったので、連絡のタイミングも電話ほど気を使うことも無く、何かの打ち合わせや連絡事項もほとんどメールでことがすむようになった。ただ友人との待ち合わせなどに味がなくなった気がする。以前は日時と場所をあらかじめ決めておいたものだが、携帯が普及してからは大体の日時場所を決めておいて、当日今何処に居るとか、来れるかなど連絡を取って、では近くのどこそこで待っているからとなった。

i-mode はかなり便利で、うちの子供たち（とは言え大人であるが）など、ほとんどなんでも調べてしまう。娯楽や、情報、株やバンキングまでできる優れものであるが、何と言ってもこれはガラパゴス、日本だけの特殊な使い方で、世界では極めて珍しいシステムである。絶滅を待つだけのシステムのような気がする。

最近普及してきたスマートフォンは、iPhoneを皮切りに各メーカーがアンドロイドOSを搭載したスマートフォンを続々と発売するに至った。これはもはや携帯するポケットコンピューターである。ユニバーサルになり何でもできるのはよいが、何でも出来すぎて中途半端、電話をかける、メールするなどの機能に特化している従来型の携帯電話のほうがはるかに使い勝手は良い、しかしスマートフォンは全世界から開発されたソフトウェアをインストールすることにより、ほぼ何でも出来る、しばらくしたらもう少し軽くなって、使い勝手の良い機種が出てくるに違いない。

最近、区医師会では患者情報のクラウドコンピューティングに取り組んでいるがこれが実現すれば患者にとっても医師にとってもすばらしい医療環境が実現できるものであらうと、期待を持って待っている。このクラウドコンピューティングに使われようとしているタブレットPCもスマートフォンの仲間といえる。近い将来患者のデータをポケットに持って往診に行ける日が来るのであらう。

そんなことを考えながらスマートフォンと格闘する毎日である。

## 理事会報告



◎平成24年度2月第1回定例理事会

日 時 平成24年2月10日(金)

午後2時～3時

場 所 浪速区医師会 会議室

### 協議事項

1. 平成24年度の新年互礼会の開催について  
＜佐久間会長＞

例年どおり、次年度も開催したい。

協議の結果、了承。日時、場所は次のとおり。

日時 平成25年1月19日(土)

午後6時～

場所 スイスホテル南海大阪 35F  
シェルブルー

2. 森川クリニックの入会金について  
＜佐久間会長＞

入会金を分割して納入したいとの申し出があった。分割額について協議願いたい。

協議の結果、本会の入会金徴収内規に則り、分割して納入いただくことに決定。

3. 郡市区等医師会社会保険担当理事連絡協議会(改正点数説明会)(3月17日(土))への出席者について  
＜佐久間会長＞  
標記協議会への出席者を決めたい。  
なお、時間は午後2時～、場所は府医会館2階。

協議の結果、次のとおりに決定。

佐久間会長、澤井副会長、菱川副会長、岡藤理事

4. 本会点数説明会の開催日程について  
＜佐久間会長＞

開催日程を決めたい。

協議の結果、次のとおり決定。

日時 3月22日(木)午後2時

5. 大阪市医師会連合会「平成24年度 正・副委員」および「次期評議員」について

＜佐久間会長＞

市医師会連合会長より、標記委員および評議員について選出方依頼があった。

協議の結果、市医師会連合会規約第5条「委員のうち正委員は各区医師会長とし、副委員は原則として各区医師会副会長とする」との規定に基づき、次期各委員、評議員を次のとおり決定した。正委員は佐久間副会長、副委員は澤井副会長。評議員は、有田副会長、菱川副会長、原田理事、徳田理事。

6. 平成24年度乳幼児健康診査等への医師派遣依頼について

＜佐久間会長＞

例年どおり、区保健福祉センターより標記健診等への医師の派遣依頼があった。

協議の結果、出務医師を募集することとなった。

7. 平成24年度精神保健福祉業務への従事医師の推薦について

＜佐久間会長＞

例年のとおり、標記業務への出務医師派遣依頼があった。

業務内容は、家族教室での講義3回、精神保健ボランティア講座での講師である。今年度出務医師は太田幹夫医師であるが、すでに内諾を得ているとのこと。

協議の結果、次年度も太田幹夫医師に依頼することとなった。

8. その他

なし。

報告事項

1. 郡市区等医師会長協議会について

(1月27日(金)) ＜佐久間会長＞

次第は次のとおり。

▷ 開会

▷ 会長挨拶

▷ 連絡事項

(1) 平成24年度医療機関ならびに勤務医師賠償責任保険団体契約更新の件

(2) 「平成24年度経済センサス—活動調査—」の実施に関する協力依頼の件

(3) 2月度行事・会合日程の件

▷ 協議

▷ 閉会 (詳細 略)

2. 大阪市認知症高齢者支援ネットワーク事業説明会について

(12月21日(水)) ＜橋村理事＞

次第は次のとおり

▷ 開会

▷ 挨拶

▷ 出席者紹介

▷ 報告

(1) 福島区・西区・大正区・浪速区・淀川区・旭区の認知症高齢者支援ネットワーク事業の進捗状況について

(2) 鶴見区・阿倍野区・住之江区・住吉区・西成区の認知症高齢者支援ネットワーク事業の進捗状況について

▷ 講評・感想

(1) アドバイザーから

(2) コメンテーターから

(3) 嘱託医から

▷ まとめ

(1) 総合司会から

▷ その他

▷ 閉会 (詳細 略)

3. 浪速区高齢者虐待防止連絡会議について

(1月26日(木)) ＜橋村理事＞

次第は次のとおり。

▷ 開会

▷ 委員、事務局紹介

▷ 議事

(1) 浪速区高齢者虐待防止の支援体制について

(2) 高齢者虐待防止の取り組みについて

(3) 大阪市(浪速区)における高齢者虐待の状況について

(4) 認知症講演会について (詳細 略)

#### 4. 新年互礼会について

(1月21日(土)) <徳田理事>

スイスホテル南海大阪7階「花桐の間」において、午後6時より開催した。

出席者は来賓12名、役員および正・副議長18名、一般会員22名、事務局2名、計54名であった。

熊田篤嗣衆議院議員の奥様、竹下隆府議會議員、森山禎久大阪市議員、富岡朋治大阪市議員、浅野宏子浪速区長より祝辞をいただいた。

#### 5. 後期定時総会について

(1月25日(水)) <徳田理事>

会員159名のうち、本人出席が20名、委任状提出者数は128名、計148名で会議は成立。

まず、次期の正・副議長の選出が行われ、議長に徳田修会員、副議長に工藤俊次郎会員を無投票で選出。

次いで、次期役員の選挙を行ったが、いずれも候補者数が定数内であったため、無投票で全員当選と決定。

新任は次のとおり。

理 事 奥山明彦

また、大阪府医師会代議員・同予備代議員(各2名)も無投票で次のとおり決定した。

代議員 佐久間靖博 澤井貞子

予備代議員 有田繁広 菱川秀夫

議事については、24年度の事業計画が了承されたあと、本会収支予算書、会費賦課徴収ならびに入会金規程について審議。すべて異議なく承認された。

6. 大阪府介護認定審査会合議体の長会議について  
(2月1日(水)) <徳田理事>

次第は次のとおり。

▷ 介護保険の運営状況について

▷ 要介護認定の平準化について

(詳細 略)

7. 郡市区医師会学校保健担当理事連絡協議会について

(1月20日(金)) <落合理事>

次第は次のとおり。

▷ あいさつ

▷ 学校保健指導者講習会教育ツールについて

(1) アレルギー性鼻炎について

(2) 小児の難聴疾患

(3) 滲出性中耳炎

(4) 食物アレルギー —正しい理解で安全、安心—

(5) 小児の肥満とメタボリックシンドローム(前編)

(6) 小児の肥満とメタボリックシンドローム(後編)

▷ 閉会

(詳細 略)

8. その他  
なし。



◎平成24年度2月第2回定例理事会

日 時 平成24年2月24日(金)

午後8時～9時40分

場 所 浪速区医師会 会議室

協議事項

1. 医師信用組合総代選出について

<佐久間会長>

このほど、府医師信用組合より24年度の総代(2名)の選出について依頼があった。任期は3年、平成24年4月1日から平成27年3月31日までである。

協議の結果、佐久間会長、澤井副会長に決定(21年度どおり)。

2. 第64回「保健文化賞」受賞候補者の推薦方  
依頼について <佐久間会長>  
例年のとおり、府医より候補者の推薦方  
依頼があった。

協議の結果、「該当者なし」と決定。

3. 定款等検討委員会の開催について  
<澤井副会長>  
標記委員会を開催したい。

協議の結果、次のとおり決定。  
日時 3月7日(水) 午後2時

4. 平成24年度今里休日急病診療所出務医師  
割当について <原田理事>  
標記診療所への出務医師割当について資  
料のとおり案をまとめた。協議願いたい。

協議の結果、一部変更し了承。

日 程	出務医師名	時 間
平成24年 5月5日 土	稲岡祥治、中山博文 本田秀明	10:00~17:00
7月29日 日	木田 徹、川田信哉	10:00~17:00
9月2日 日	山田郁子、川田信哉	10:00~17:00
10月7日 日	岡藤龍正、有田繁広	10:00~17:00
11月23日 金	三宅忠夫、川田信哉	10:00~17:00
12月16日 日	池田秀博、橋村直隆	10:00~17:00
平成25年 1月3日 木	徳田好勇、井上宏之 有田繁広、山下弘道	10:00~17:00

5. 平成24年度上半期中央急病診療所出務医師  
割当について <原田理事>  
標記診療所への出務医師割当について資  
料のとおり案をまとめた。協議願いたい。

協議の結果、了承。

日 程	出務医師名	時 間
平成24年 5月3日 木	中村淳子、入野宏昭	準夜 17:00~22:00
5月25日 金	金田高次	深夜 22:00~30:00
6月18日 月	篠原嘉伸	深夜 22:00~30:00
7月28日 土	川合秀治	深夜 22:00~30:00
8月16日 木	藤吉理夫	深夜 22:00~30:00
9月19日 水	菱川秀夫	深夜 22:00~30:00

6. 浪速区三師会の開催について  
<徳田理事>  
協議の結果、次年度の6月頃に開催する  
ことに決定。  
詳細については、三師会で調整し決定する。

7. その他  
なし。

#### 報告事項

1. 郡市区等医師会長協議会について  
(2月24日(金)) <佐久間会長>  
次第は次のとおり。  
▷ 開会  
▷ 会長挨拶  
▷ 連絡事項  
(1) 診療報酬改定に関する説明会関係資  
料及び関係書類の配布予定の件  
(2) 近畿厚生局がおこなう診療報酬改定  
説明会の件  
(3) 「3.11の経験を大阪府民に生かす～  
被災地支援から見えた、新しい医療  
のカタチ～」シンポジウム参加協力  
依頼の件  
(4) 3月度行事・会合日程の件  
▷ 協議  
▷ 閉会 (詳細 略)

2. 第293回府医臨時代議員会について  
(2月19日(日)) <佐久間会長>  
次第は次のとおり  
▷ 開会  
▷ 仮議長推挙  
▷ 選挙  
(1) 大阪府医師会代議員会議長・副議長  
(2) 次期就任大阪府医師会長  
(3) 同大阪府医師会副会長  
(4) 同大阪府医師会理事  
(5) 同大阪府医師会監事  
(6) 同大阪府医師会裁定委員  
(7) 同日本医師会代議員  
(8) 同日本医師会予備代議員  
▷ 閉会



以上の結果、いずれも候補者が定数と同数であったため、無投票で全員当選と決定した。

### 3. 大阪市医師会連合会委員会について

(2月20日〈月〉) <佐久間会長>

次第は次のとおり。

▷ 協議事項

- (1) 平成24年度事業計画(案)の件
- (2) 平成24年度歳入歳出予算(案)の件
- (3) 第27回評議員会(3月19日)への提出議題の件

- (4) 平成24年度会議日程(案)の件

▷ 連絡事項

- (1) 平成23年度大阪市各種がん健診事業評価調査の件
- (2) 大阪市一般診療科医と精神科医の連携にかかるアンケートへの協力の件
- (3) 平成24年度大阪市保健事業の件
- (4) 2種類以上のワクチンを接種する場合の取扱いの件
- (5) 西成区における医療扶助適正化対策(案)の件

- (6) 大阪市立中学校におけるMRワクチン(3期)集団的個別接種の件
- (7) 大阪市立保育所「アレルギー除去食に関する指示書」使用延期の件
- (8) 大阪市立保育所嘱託医委嘱手続きの件

▷ 報告事項

- (1) 大阪市地域包括支援センター運営協議会・選定部会(12月2日)報告の件
- (2) 大阪市立市民病院経営検討委員会(12月28日)報告の件
- (3) 大阪市立総合医療センター地域医療連絡協議会(2月3日)報告の件
- (4) 大阪市立中学校におけるMRワクチン(3期)集団的個別接種実施検討委員会(1月27日)報告の件
- (5) 大阪市生活習慣病検診会議(2月3日)報告の件
- (6) 大阪市介護認定審査会正副会長会(2月3日)報告の件 (詳細 略)

### 4. 浪速区地域支援調整チーム実務者会議について

(2月16日〈木〉) <橋村理事>

次第は次のとおり。

▷ 各専門部会の報告(年間まとめ報告)

- (1) 障害者専門部会(浪速区地域自立支援協議会)
- (2) 子育て支援専門部会
- (3) 高齢者虐待防止専門部会(高齢者虐待防止連絡会議)
- (4) 地域ケア会議

▷ 情報交換(共有)など

- (1) 要援護者支援について考える(経過報告)

▷ 新年度以降の大阪市の動きについて(情報交換)

▷ 代表者会議への提言、提案について

▷ その他 (詳細 略)

### 5. 介護認定審査会委員連絡協議会について

(2月16日〈木〉) <徳田理事>

次第は次のとおり。

▷ 平成24年4月からの認定審査会運営について

- ①合議体の編成及び開催日程について  
認定件数増に対応するため4合議体から5合議体体制とした。  
医師会から派遣する委員も2名増員して10名となった。

- 第1合議体：徳田理事、鍵本医師
- 第2合議体：長谷川理事、川合医師
- 第3合議体：松田医師、竹中(裕)医師
- 第4合議体：菱川副会長、山田医師
- 第5合議体：岡藤理事、佐伯医師

▷ 大阪市介護認定の現況

▷ モデル事例の検討 (詳細 略)

### 6. 日本医師会医療情報システム協議会について

(2月11日〈土〉) <久保田理事>

日本医師会館で開催された。

次第は次のとおり。

▷ 開会挨拶

▷ シンポジウムⅠ 医師会事務局セッション  
「医師会事務局の災害時対応は大丈夫か？」

▷ パネルディスカッション

▷ シンポジウムⅡ

「ORCAプロジェクトについて」

また、本協議会の後、有志のオフ会に参加し、ブルーカードシステムについて説明を行った。

次第は次のとおり。

▷ 明日へのディベート(医療編)

テーマ「国益とはなにか」

(1) 不活化ポリオワクチン接種を始めたわけ  
宝樹真理先生(たからぎ医院)

(2) 黒い雨

本田孝也先生(本田内科医院)

(3) 雇用を守り、医療崩壊を防ぐために  
亀田隆明先生(亀田総合病院)

▷ 皆さんに伝えたいこと

(1) 忘れ得ぬ 3.11. PM2:46 M9.0 震度7  
長谷川先生(福島県いわき市)  
追加：布施雅彦先生からの情報提供  
(2012/2/15)

(2) 東日本大震災における情報共有の問題点  
本田忠先生(青森県八戸市)

(3) 浪速区医師会ブルーカード・プロジェクト(続報)  
有田繁広先生(大阪市)

(4) クラウドとAPIで実現する医療情報共有HAB妄想  
朝比奈完先生(横浜市) (詳細 略)

#### 7. 郡市区医師会医業経営担当理事連絡協議会(税務講習会)について

(1月26日<木>) <木田理事>

次第は次のとおり。

▷ 開会

▷ 挨拶

▷ 説明

(1) 「平成23年分の確定申告の留意点等について」

(2) 「平成23年分の確定申告」ならびに中央情勢について

▷ その他

▷ 閉会 (詳細 略)

#### 8. 税務講習会について

(2月2日<木>) <木田理事>

次の内容で開催した。

▷ 所得税等の決算と申告の留意点

浪速税務署 個人課税第一部門  
統括国税調査官 山下新氏

▷ 株式譲渡所得等の申告の留意点

浪速税務署 個人課税第二部門  
統括国税調査官 北口忠芳氏

また、出席者は、本会27名、歯科医師会8名、薬剤師会2名の計37名であった。

(詳細 略)

#### 9. 病診連携委員会について

(1月30日<月>) <金田理事>

次第は次のとおり。

▷ 第27回病診連携委員会報告について

▷ ブルーカード事例検討について

▷ 病診連携委員会のアンケート結果について

▷ 南医師会 川端先生からの報告について

▷ 連携病院のブルーカード制度の再確認について

▷ ブルーカードアプリの進捗状況について

▷ その他 (詳細 略)

#### 10. 医療問題研究委員会について

(2月8日<水>) <金田理事>

次のテーマに沿って意見交換が行われた。

テーマ 「医療のIT化(そのあるべき姿とインパクト)」

(詳細 略)

#### 11. その他

なし。

次回会議 平成24年3月9日<金>午後2時～

## 2月度 学術講演会報告

学術担当理事 富永 良子

日 時 平成24年2月25日(土) 午後2時  
演 題 ガイドラインとこれからのGERD診  
療 ～今わかっていること・今すべきことは～  
講 師 大阪府済生会野江病院  
消化器内科 部長  
羽生 泰樹 先生  
出席者数 7名  
共 催 エーザイ(株)  
情報提供 プロトンポンプ阻害剤バリエット  
について

近年、日本でも胃食道逆流症(Gastroesophageal Reflux Disease: GERD)が増加している。

戦後、日本の食生活は欧米化し、動物性たんばく、脂質摂取が多くなった。身長・体重ともに増加傾向にあり、胃酸分泌は増加している。また若年層でヘリコバクター・ピロリの感染率が減少していることも一因である。

GERDの存在はQOLを低下させることが判明した。

2009年、日本消化器学会によるGERD診療ガイドラインが完成した。

### 〔診断について〕

・GERDの疾患概念は胃・十二指腸内容物が逆流することによっておこる食道粘膜病変である。

症状は胸やけ、呑酸が多い。食道外症状も多く、咽喉頭異物感や非心臓性胸痛、慢性咳嗽などがある。胸やけを誤解している人が多く、患者から症状を導くのは難しい。胸やけは心窩部から前胸部胸骨後方にかけて上昇する灼熱感を伴う不快な症状である。呑酸は胃液の口腔内への逆流、胃液の酸味と苦味とを口腔内に感じる症状である。

・酸の逆流を証明するには24時間pHモニタリングを行う。特異度は高いが日常臨床には

不向きである。

・臨床ではPPI(プロトンポンプ阻害薬)テストが有用である。これはPPIを服用して症状の改善が50%以上みられたものを陽性とする。感度は80%である。

### 〔治療について〕

1. 生活習慣の改善(暴飲暴食をさける、高脂肪食を回避、夜間の胸やけをみとめる患者に対してベッドの頭側挙上など)
2. 1で効果がなければ薬物療法を行う  
PPIがH<sub>2</sub>受容体拮抗薬より効果が高く、費用対効果にも優れているため、海外、本邦ともにPPIはGERDの第一選択薬である(グレードA:行うよう強く勧められる)とされた。
3. 常用量のPPIの投与で十分な効果が得られない場合、PPIの投与量の変更を行う。  
本邦で使用可能なPPIのうち、ラベプラゾールのみが添付文書上、倍量投与が可能である。ガイドラインの方針どおり、投与量、投与方法の変更ができる。難治例、治療抵抗例の管理、QOL向上に寄与することが期待される。
4. PPIはその強力な酸分泌抑制作用のため長期使用に際してさまざまな懸念が示されてきたが、長期投与による臨床的に問題になる有害事象はほとんどないことが明らかになった。PPIによる維持療法の安全性は高い(グレードB)とされた。

### 〔今後の話題〕

バレット食道:食道は扁平上皮だが、酸曝露により円柱上皮化生が起こったものである。

食道腺癌が発症しやすくなる。食道腺癌は予後不良であり、GERDはそのリスクファクターである。

PPIにより予防できる可能性がある。

文責 富永良子



## 4 月度学術講演会の お知らせ

4 月の浪速区医師会講演会の内容は下記のとおりです。

多数の先生方の参加をお待ちいたします。

日時：4 月28日〈土〉午後 2 時30分～

場所：浪速区医師会 会議室

演題：「腎生理を考慮した

Cardiorenal Protection」

講師：近畿大学医学部 腎臓内科

主任教授 有馬 秀二 先生

## 「大阪市高齢者健康医療相談事業」の 終了について(お知らせ)

標記事業は平成23年度をもって終了することとなりました。

これまでの長い間、ご多忙にもかかわらず本事業にご出務いただきましたこと感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



## 浪速区医師会 活動の伝言板

平成24年 4 月の各業務の出務予定は次のとおりです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 三 歳 児 健 診

●保健福祉センター

4 月26日〈木〉午後 1 時40分～ 3 時30分

眼 科 吉野 成泰

耳鼻科 中村 泰久

### B C G 接 種

●保健福祉センター

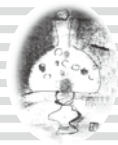
4 月19日〈木〉 午後 2 時～ 3 時30分

有田 繁広・北村 栄作

### 浪速区医師会クラブ活動案内

各クラブ活動は下記日程で行っております。多数のみなさま方の参加をお待ちしております。（ときに時間変更される場合がありますので、各部代表まで連絡をお願いいたします。）

囲 碁 部 毎月第 1・3・5 (土)  
(川田信) pm 5 : 00～



## あとがき

Y.M

今月の巻頭言士は、世の中に携帯電話なるものが出現して以来の歴史を述べておられる。現代に生きている人間にとって、いまや携帯電話なしにはひとときも過ごせないのではないかと思えるほどその恩恵を蒙っている。普及したのはほんの十年余り前のことだが、もはや携帯のなかった時代のことは思い出せないくらい生活に溶け込んでいる。

先日、テレビでアフリカのサバンナに暮らすマサイ族の人々の様子を見る機会があった。彼らは粗末な小屋に住んで、ろくな家財道具も持っていないのに、なんと携帯だけはしっかりと持っているのを見て驚いた。これほど急速に、しかもほぼ同時に世界中に広まって、多くの人々に重宝されている文明の利器は、今までになかったのではないかと思う。

ところで私の持っている携帯は、スマートフォンどころか、何世代も前のシンプルな機種である。それでもカメラやメールはもちろん、i-modeなどいろんな機能が内蔵されている。しかし、私はそれらを到底使いこなせないし、使う必要もない。私にとって電話としての機能以外はほとんど無用の長物である。メールも決まった人と時には通信するが、別になくても大した支障はないと思っている。

今や世の中はすべてデジタルの時代であり、私も携帯以外にデジカメや薄型テレビは大体操作できるのだが、パソコンはやはりどうしても苦手である。6年ほど前に病院のシステムの大半がIT化されるのを機会に、一生懸命練習した結果、ものがすべて上下二段に重なって見えると言う大変な視力障害が生じたのも一因になっている。それに私はやはり古臭いアナログ人間であり、デジタルと言うものには生理的嫌悪感と恐怖心を抱いているらしい。自宅にはパソコンを置いていないので、必要な時には病院のものを借っている。

そうは言うものの、私はワープロと言うデジタル機器は重宝しており、今もこの原稿はカシオのDarwinという機種で書いている。文章を作るのはパソコンではなく、昔ながらのワープロの方がやはり便利だと思うのだが、残念なことにどこの電機店に行っても、もう置いてないし、ワープロと言うだけで怪訝な顔をされる。

私よりほぼ一世代若い巻頭言士などとは文字通り世代が違うと言いたいのだが、同年輩でもパソコンに達者な人は結構いるので、やはり昔気質の単なるわがままだろうか。浪速区医師会でもほとんどの会員はスマートフォンやパソコンを駆使し、病院でもその傾向が強まりつつある。IT化について行けない私は、もう医師そのものも廃業せねばならないのだろうかと不安な気持ちに駆られている。



	目次	ページ
巻頭言		
スマートフォン	本田 秀明	1
理事会報告（2月開催）		2
4月学術講演会のお知らせ		4
2月学術講演会報告	富永 良子	8
浪速区医師会活動の伝言板		9
あとがき		10

### 【区医だより】

発行者 佐久間靖博

編集者 中村泰久 橋村直隆

印刷所 株式会社 サ ビ